

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

“当施設におけるベーチェット病関節炎患者の  
臨床的特徴と QOL の関係”

“研究分担者 土橋浩章” “所属 香川大学医学部血液・免疫・呼吸器内科学”

研究要旨

ベーチェット病（BD）患者の関節炎は指定難病の重症度項目に含まれているが、関節炎の存在が疾患活動性や QOL にどのように関連するか明らかにされていない。当施設での BD 患者について後ろ向きに調査し、臨床症状、BD の疾患活動性指標、関節病変の活動性指標について関節炎の有無で比較検討した。関節炎を有する症例では活動性病変として口腔潰瘍の割合が有意に多く、皮膚病変も多い傾向であった。また関節炎の活動性は、関節リウマチで用いる疾患活動性指標では低疾患活動性から中疾患活動性を呈する症例が多かった。関節炎がある症例は関節炎がない症例と比較して BD の疾患活動性指標と QOL が高く、関節病変の項目を除外しても同様の関係であることが判明した。関節炎の活動性指標が高いほど BD の疾患活動性指標と QOL が高い傾向を示した。今回の結果から、BD の関節炎は口腔潰瘍に関連し、BD 患者の関節炎は BD の疾患活動性と QOL に影響を及ぼすことが示唆された。

A. 研究目的

ベーチェット病（BD）に生じる関節炎は口腔潰瘍と同様に患者の QOL に関わる重要な病変と考えられている。しかし関節炎が臨床症状や QOL にどのように影響するかは明らかにされていない。BD 患者の関節炎が患者の QOL にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2022 年 1 月から 2023 年 6 月までに当施設にて BD 病と診断され通院治療中の患者を対象とした。臨床症状、患者の QOL (BDQOL)、疾患活動性指標 (BDCAF、BSAS、Face scale、患者全般 VAS、医師全般 VAS) を評価した。関節病変の活動性指標として圧痛関節数、腫脹関節数、CRP、血沈を抽出した。これらの評価項目について関節炎群と非関節炎群に分けて比較検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は香川大学医学部倫理委員会で承認されている(2023-057)。

C. 研究結果

対象は 69 名(男性 21 名、女性 48 名)。平均年齢は 48.0 歳、平均罹患期間は 13.0 年であった。評価時の活動性病変は口腔内潰瘍 47 例(68%)、陰部潰瘍 15 例(21.7%)、皮膚病変が 15 例(21.7%)、眼病変 1 例(1.4%)、関節炎 32 例(46.4%)であった。疾患活動性について中央値はそれぞれ患者全般 VAS 49、医師全般 VAS 10、BSAS 20.5、BDQOL 4、BDCAF 2 であった。

関節炎あり群 (n=32) と関節炎なし群 (n=37) について活動性を比較したところ、関節炎あり群では口腔潰瘍を有する割合が高く (84.4% vs 54.1%, p=0.0095)、皮膚病変を有する割合も多い傾向があった。また医師全

般 VAS、患者 Face scale についても関節炎あり群の方が関節炎なし群と比較して有意に高く、BSAS と BDQOL も高い傾向があった。BDCAF についても関節炎あり群の方が関節炎なし群と比較して有意に高く、関節炎に関わる項目を除外した BDCAF でも同様の結果であった。

また関節炎の活動性についてそれぞれの中央値は SDAI 9.3、CDAI 9.1、DAS28-CRP 2.8 と低～中疾患活動性であった。関節炎の活動性が高いほど BDQOL、BSAS、BDCAF が高く、正の相関が見られた。

#### D 考察

BD の関節炎は寡関節炎が主体とされており、今回の検討でも関節炎の活動性は比較的高くなかった。しかし、関節炎の活動性が高いほど BD の全体の疾患活動性が高く、関節炎の指標を除いても疾患活動性が高いことが示された。

ベーチェット病の表現型にする臨床クラスター解析では皮膚粘膜病変と関節炎は同じクラスター解析に分類されていることが報告されている。今回の研究でも関節炎が残存する症例は活動性の皮膚粘膜病変を有する症例が多く、両者の関連性が示された。

BD の関節炎を有する症例では皮膚粘膜病変の活動性が高く、BD の総合疾患活動性も高くなると考えられ、QOL の悪化につながる可能性が示された。

#### E. 結論

BD の関節炎は口腔潰瘍に関連する。BD 患者の関節炎は BD の疾患活動性と QOL に影響を及ぼすことが示唆された。

#### F. 研究発表

##### 1) 国内

口頭発表	1 件
原著論文による発表	0 件
それ以外（レビュー等）の発表	0 件

##### 1. 論文発表

#### 原著論文

1. 著書・総説  
1.

##### 2. 学会発表

1. 杉原幸一,脇谷理沙,牛尾友亮,中島崇作,島田裕美,宮城太一,三野利奈,水崎旬音,中條加奈子,香川涼子,的場謙一郎,猪尾昌之,亀田智広,土橋浩章. 当施設におけるベーチェット病の関節病変が及ぼす影響の検討. 第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会.2023 年 4 月

##### 2) 海外

口頭発表	0 件
原著論文による発表	0 件
それ以外（レビュー等）の発表	1 件

##### 1.論文発表

#### 原著論文

1. 著書・総説  
1.

##### 2. 学会発表

1. Koichi Sugihara,Risa Wakiya,Yusuke Ushio,Shusaku Nakashima,Hiroshi Shimada,Taichi Miyagi,Kanako Chujo,Ryoko Kagawa, Hayamasa Yamaguchi,Tomohiro Kameda and Hiroaki Dobashi. Clinical Features and Quality of Life of Japanese Bechet's Disease Patients with Arthritis: A Japanese Monocentric Study.2023 ACR/ARHP ANNUAL MEETING.2023. 2023年11月

#### G. 知的財産権の出願、登録状況

（予定を含む）なし

##### 1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録  
なし
3. その他